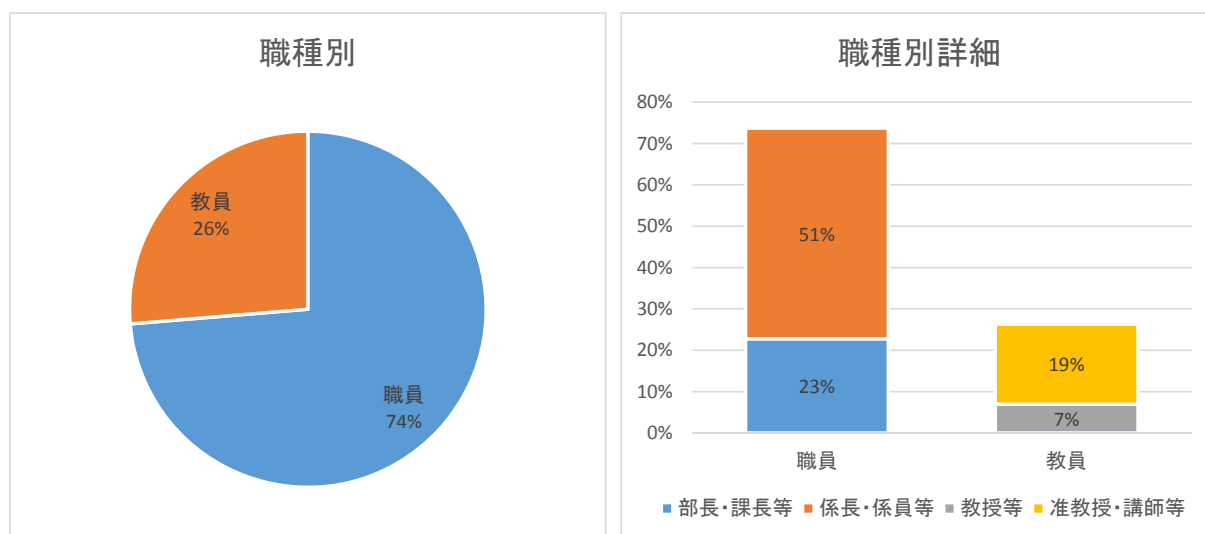


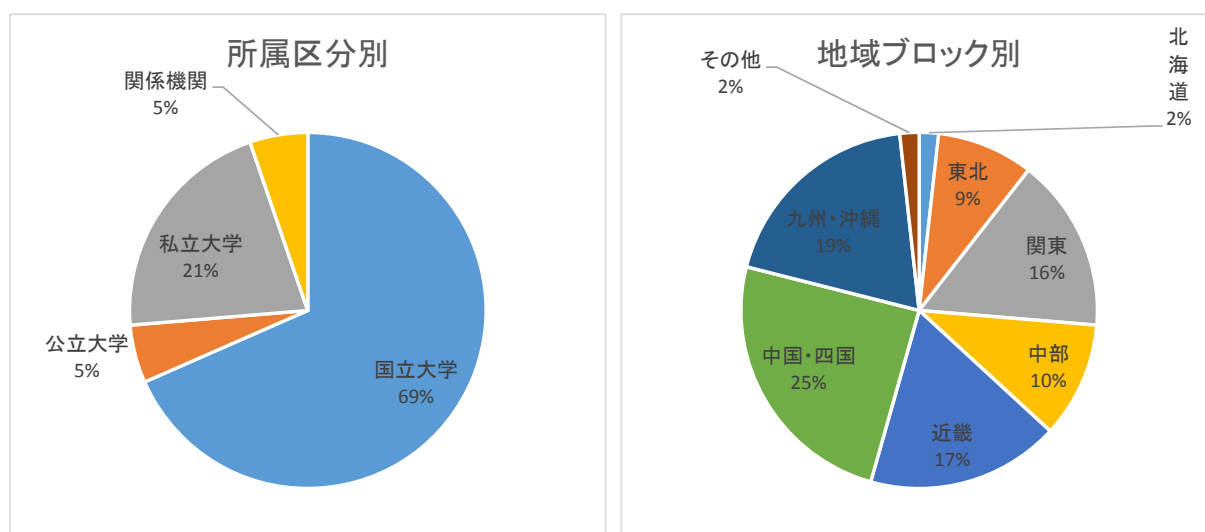
## ○ 参加者について

分科会「評価・IRの実践・課題共有セッション」には、計59名からの申し込みがあり、当日は57名が参加しました(N=57)。参加者の属性分析は、申し込み時に参加者からご提供頂いた所属や職種等の情報を基に行いました。なお、「参加者」とは、国公立大学及び関係機関の「通常会員」であり、運営スタッフである「幹事」及び「運営協力者」の10名を含んでいます。

職種別の参加比率は、職員が74%、教員が26%でした。また、職員の職層を「部長・課長等」及び「係長・係員等」、教員の職層を「教授等」及び「准教授・講師等」に分けて示すと、職員の係長・係員等が51%と最も多く、次が職員の部長・課長等で23%でした。

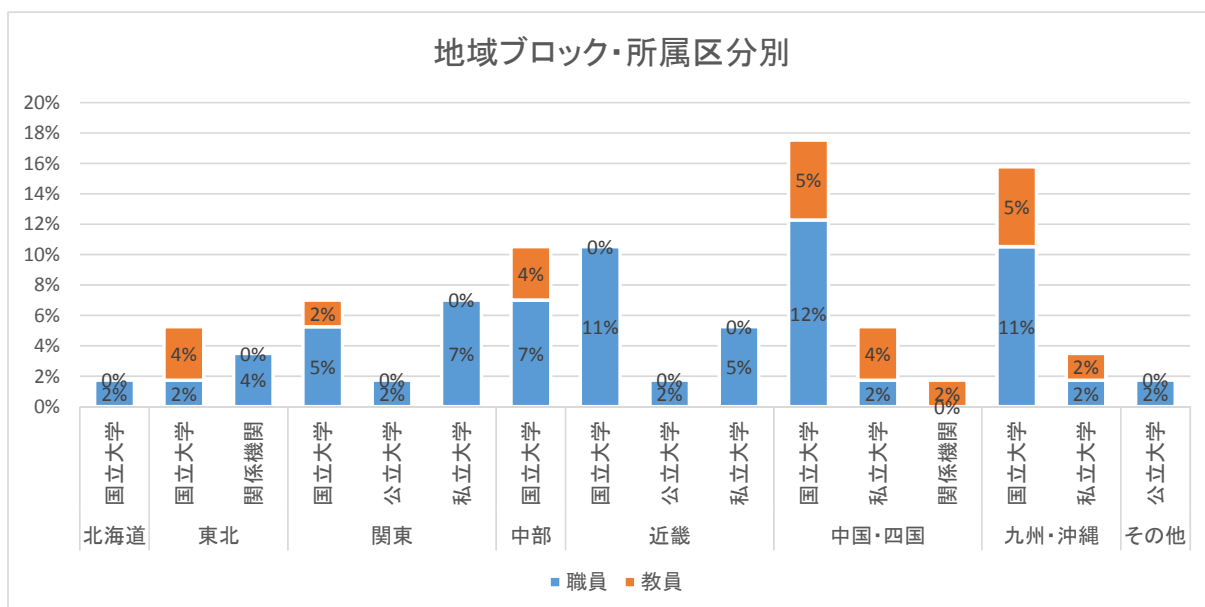


所属区分別では、国立大学が69%を占めており、私立大学は21%でした。また、地区ブロック別では、中国・四国地区が若干高いものの、各地区ブロックからほぼ均等に参加していることが伺えます。なお、近畿地区、中国・四国地区及び九州・沖縄地区からの参加比率が61%である

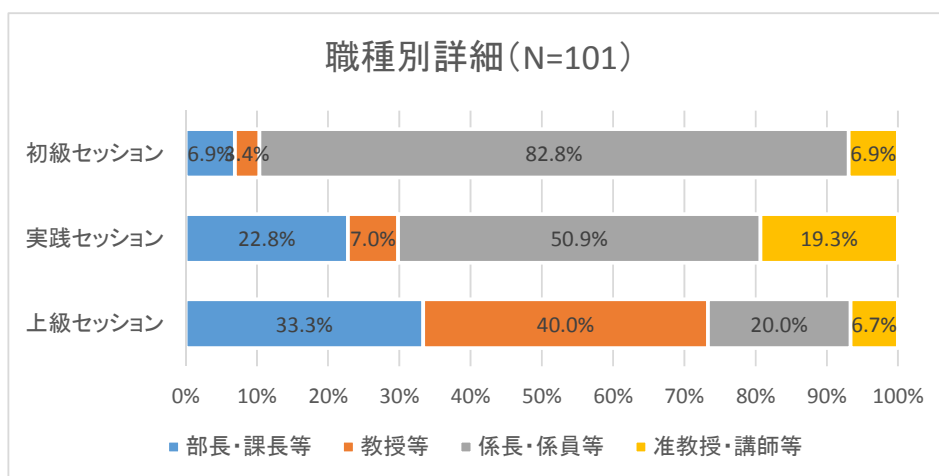


ことから、西日本の大学を中心に参加していることが伺えます。

地域ブロック・所属区分別と職種別をあわせて確認すると、中部地区、近畿地区、中国・四国地区及び九州・沖縄地区の国立大学において教職員の参加率が10%以上でした。職員については、中国・四国地区の国立大学の12%が最も多く、次が近畿地区及び九州・沖縄地区の国立大学の11%でした。



本分科会では、評価あるいはIR業務に一定程度携わっている方(中級)を対象としており、「評価との関わり」の内容も確認すると、課長補佐、係長及び主任等のある程度実務経験がある職員の方や准教授・講師等の教員が多く参加されていました。また、下記に示す各分科会の参加者総数(N=101)と職種別詳細の関係によると、対象者と参加者属性の対応関係は良好であり、本分科会の主旨に沿った参加状況だったと言えます。



(大野 [鳥取大])

■区分表（共通）

地域ブロック	説明
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中部	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県
近畿	大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、三重県、滋賀県、和歌山県
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
その他	米国

職種	職種区分	説明
職員	部長・課長等	部長、課長、課長補佐、副課長、グループ長、グループリーダー、総括主査、事務長、室長、次長、部長、参事、副参事、など
	係長・係員等	係長、主任、主査、主事、専門職員、課員、係員、チーム員、職員、スタッフ、所員、特任研究員、など
教員	教授等	学長、副学長、学長補佐、部局長、教授、など
	准教授・講師等	准教授、講師、助教、など